

ほほえんで北播磨



令和5年4月 第36号



ごあいさつ

病院長
西村 善博

北播磨総合医療センターは、神戸大学からの提案を受け、大学と行政が連携して病院を建設するという全国でも例を見ない先駆的な取組みにより、三木市民病院と小野市民病院が統合し、北播磨の中核を担う病院として、2013年10月1日に開院しました。今年、丸10年を迎えることとなります。

当院は、34科許可病床数450床を有する急性期病院で、「患者と医療人を魅きつけるマグネットホスピタルを地域とともに築き、理想の医療を提供します。」を基本理念に掲げ、国の医療上の重点項目である、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病への対策に加え、地域の医療ニーズに応えるべく、救急医療、小児医療の機能を充実・強化しています。

そして、高品質な医療を提供するため、PET-CT、3.0T（テスラ）MRI、256列CT、バイプレーン血管造影装置、ダヴィンチXi、リニアック、ハイブリッド手術室などの高度医療機器を備え、充実した医療スタッフによる専門的かつ横断的な診察により、質の高い医療を提供しています。

また、2021年4月には「がん総合診療センター」を設置し、がん診療を強化して参りましたが、これまでの診療実績が認められ、2023年度国指定地域がん診療連携拠点病院に指定されました。今後さらに質の高いがん診療提供体制を整

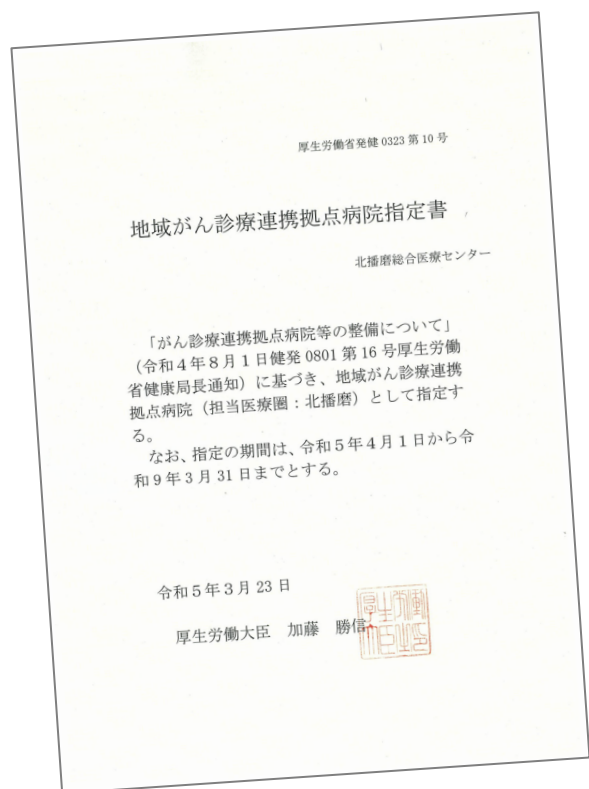
え、チーム医療の推進等に取り組んで参ります。

当院は、地域で活躍する医療人を育成するため、優秀な指導者や教育設備を整えた臨床研修機能を有しており、専門研修については、内科専門医及び外科専門医を育成する基幹病院として登録されています。また、医師初期研修マッチング制度において開院以来フルマッチが継続できており、昨年度から1名増加した12名の初期研修医を今年度より育成することになりました。

さて、2022年度におきましては、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として感染患者の受入れ体制を敷いたことにより、一般病床は、369床にて病床運用を行って参りましたが、諸般の事情で一般病棟8病棟の内2病棟を休止し、320床で運用することになりました。患者さんへの早期の退院・転院のお願いや一部受け入れが困難な状況も考えられます。これまでの診療体制をできる限り維持する努力を致しますが、何卒ご理解のほどよろしく御願いたします。今後も北播磨の急性期医療の中核を担う病院として、地域で完結する医療を提供するため、地域の医療機関との連携を更に強化し、より高度で質の高い、皆様に安心して頂ける医療を持続的に提供してまいります。どうぞよろしく御願いたします。

ごあいさつ	1
地域がん診療連携拠点病院	2
ドクターのリレー講座	3
減塩のポイント	6
健康管理センター便り	8
大きくな～れ	9
患者満足度調査	10
医師異動のご案内	11
編集後記	12

令和5年4月 地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました



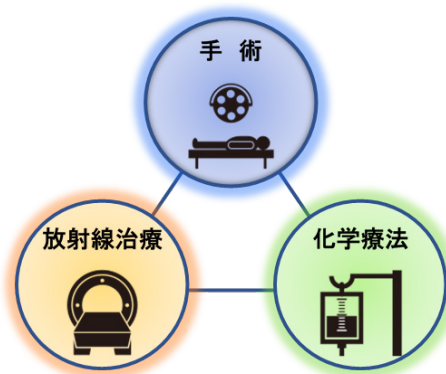
当医療センターは、2019年（平成31年）に兵庫県指定がん診療連携拠点病院の指定を受け、北播磨圏域をはじめとした医療機関から、多くのがん患者さんをご紹介いただき診療を行ってまいりました。このたび、専門的ながん医療の提供をはじめ、地域でのがん診療連携体制の整備など、指定要件をすべて満たしていることが評価され、国指定「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。

地域がん診療連携拠点病院は、質の高いがん医療が提供できるよう、国により指定されており、専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者さんやご家族に対する相談支援及びがんに関する情報提供等を行っています。

当医療センターでは、地域完結型の切れ目のない医療を提供するため、院内はもちろん、地域の医療機関と連携して、がん診療体制を充実しています。

我が国に多いがん（大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん及び肝・胆・膵のがん）を中心に手術や化学療法、放射線治療などを組み合わせた集学的治療や病気に伴う心や体の痛みを和らげる緩和ケアなどを行っています。以前から低侵襲手術として鏡視下手術を行ってきましたが、内視鏡手術支援ロボット「da Vinci」を導入し、消化器外科領域（食道、胃、結腸、直腸）、泌尿器科領域（前立腺、腎、膀胱）、呼吸器外科領域（肺、縦隔）においては、より繊細で精密な手術が可能になっています。また、放射線を照射してがん細胞を死滅させる放射線治療も行っており、放射線治療専門医2名、医学物理士2名を擁し、より高い精度の治療が可能です。さらに化学療法では、従来の抗悪性腫瘍剤を用いた治療に加え、薬剤を用いた免疫療法にも対応しています。緩和ケアは、がん治療ができなくなった方への治療と思われがちですが、当医療センターでは「がんと診断されたときから始まる緩和ケア」に取り組んでおり、患者ファーストの意識を常に心に留めてケアに務めています。

がんの三大標準治療法



患者総合サポートセンター

地域医療連携室

医療機関や介護施設、行政などとの連携と広報活動。セカンドオピニオンの予約。

入退院支援室

患者の意思決定を大切にしながら、入院前から退院後も安心して療養生活が送れるように多職種で支援。

患者相談支援室

看護師、ソーシャルワーカーを配置。看護や介護、療養生活や退院後の生活、医療費や制度などの相談に対応。

がん相談支援センター

専門の相談員が、がんに関する不安や悩みなどの相談に対応。医療機関やスタッフと連携し支援。

患者ファーストの意識を常に心に留めてケアに務めています。

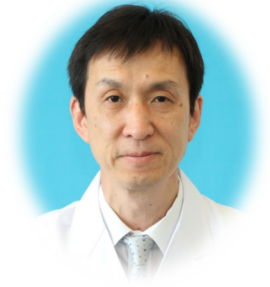
患者総合サポートセンターを設置して、患者さんが安心・納得して退院でき、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、診療、看護、介護等の相談、がん患者さんやそのご家族への支援、入退院支援など、患者サポート体制のより一層の充実を図るとともに、更なる地域医療連携強化に取り組んでまいります。



「ロボット手術」

先端医療センター長（ロボット手術部門）

兼泌尿器科部長兼診療科長 田中 一志



【1. はじめに】

当院では2015年から手術支援ロボットを用いた手術（ロボット手術）を行なっています。導入当初は前立腺がん手術のみの保険適用でしたが、その後徐々に適用が拡大され、現在は消化器外科、呼吸器外科領域など31の術式（疾患）にまで拡大されています。当院においても泌尿器科のみならず、外科、呼吸器外科など複数の診療科でロボット手術を行い、年々増加傾向にあります。今回は泌尿器科を中心に当院でのロボット手術の取り組みについて紹介します。

【2. ロボット手術について】

ロボット手術とは手術支援ロボット（ダヴィンチ：da Vinci、など）を用いて行う体腔鏡（腹腔鏡など）手術です。ダヴィンチ（図1）はアメリカ（Intuitive社）で開発され、1999年から2000年に欧米で医療機器としての使用が認可されました。日本では2009年より医療機器として認可を受け、2012年4月より、前立腺癌に対する手術が保険医療として認められました。前述したように日本への導入は約8年程度遅れ、当時は海外で普通に行われているロボット手術が日本では受けられないなどのいわゆるデバイスラグが問題となりましたが、現在はかなり解消されています。



図1：Da Vinci Xi サージカルシステム

手術支援ロボットもダヴィンチのみならず、国産メーカーのメディカロイド社（兵庫県に本社がある）のhinotori（図2）やMedtronics社のHugo RASシステム（図3）など複数のメーカーからも上市されています。ロボット手術といっても、自発的にロボットが手術をするわけではありません。手術支援ロボットシステムは、術者がコンソール、コックピットなど患者さんから離れたところから

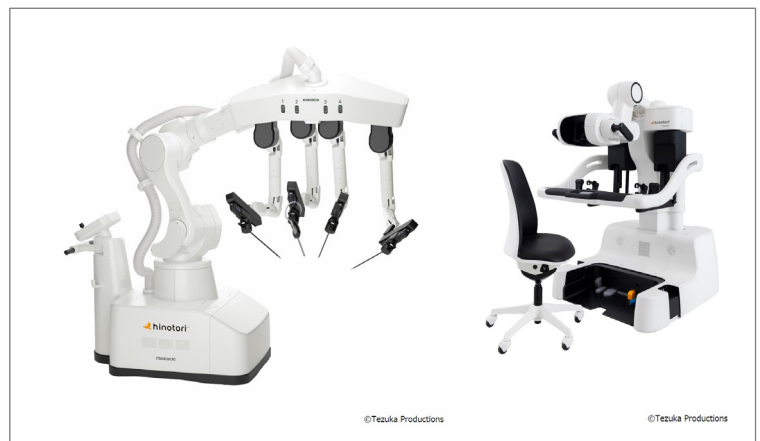


図2：hinotori サージカルロボットシステム

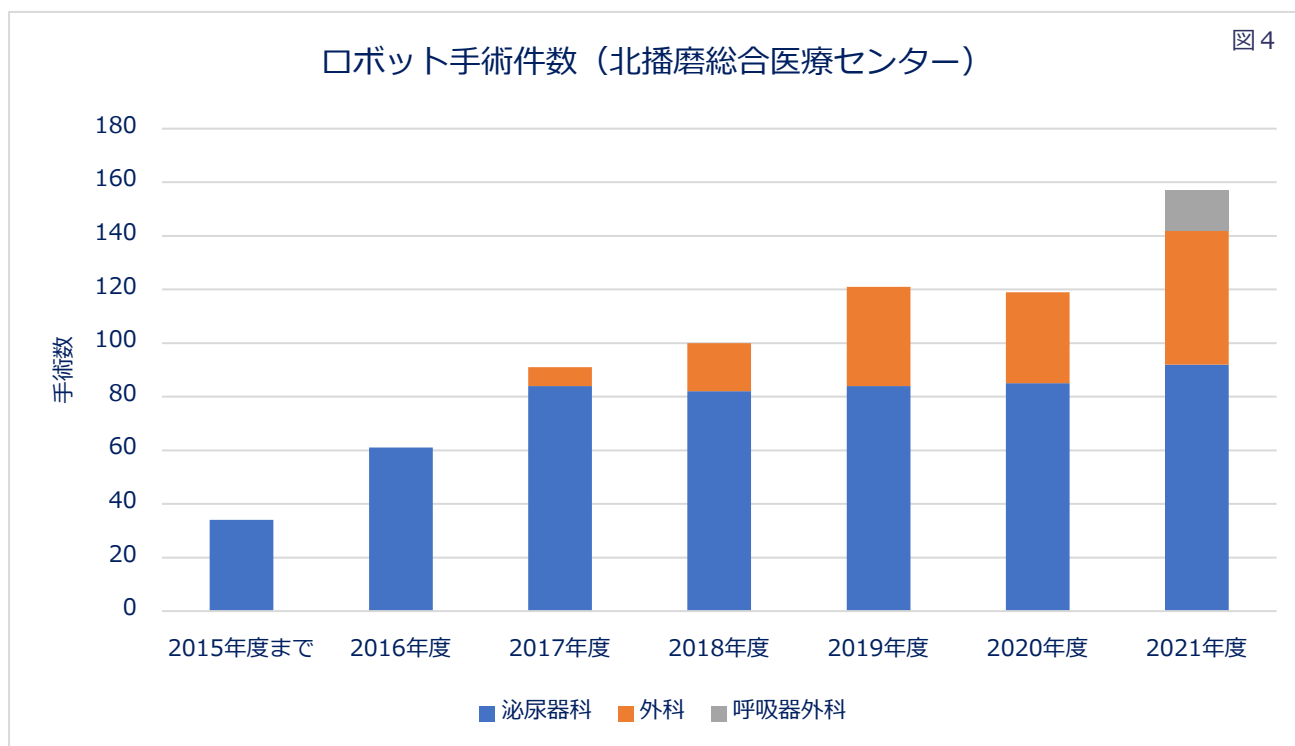
手術ロボットを操作し手術を行います。鮮明な画像でより緻密な手術ができる特徴を有しています。当院では2015年に当時の主力機種であったダヴィンチSiが導入され、2020年には後継機種であるダヴィンチXiに更新されました。ダヴィンチXiは日本で販売開始後約7年になりますが、現在でももっとも汎用性の高い(保険適用が多い)、高性能機種です。



図3：Hugo RAS システム

【3. 北播磨総合医療センターでのロボット手術（図4）】

当院では2015年3月に1例目のロボット支援根治的前立腺摘除術を開始しました。その後は保険適用の拡大とともに当院においても複数の診療で開始し、その手術件数は増加傾向です。2021年度の手術件数157例で、同規模の病院と比較すると兵庫県内ではトップクラスの手術件数です。

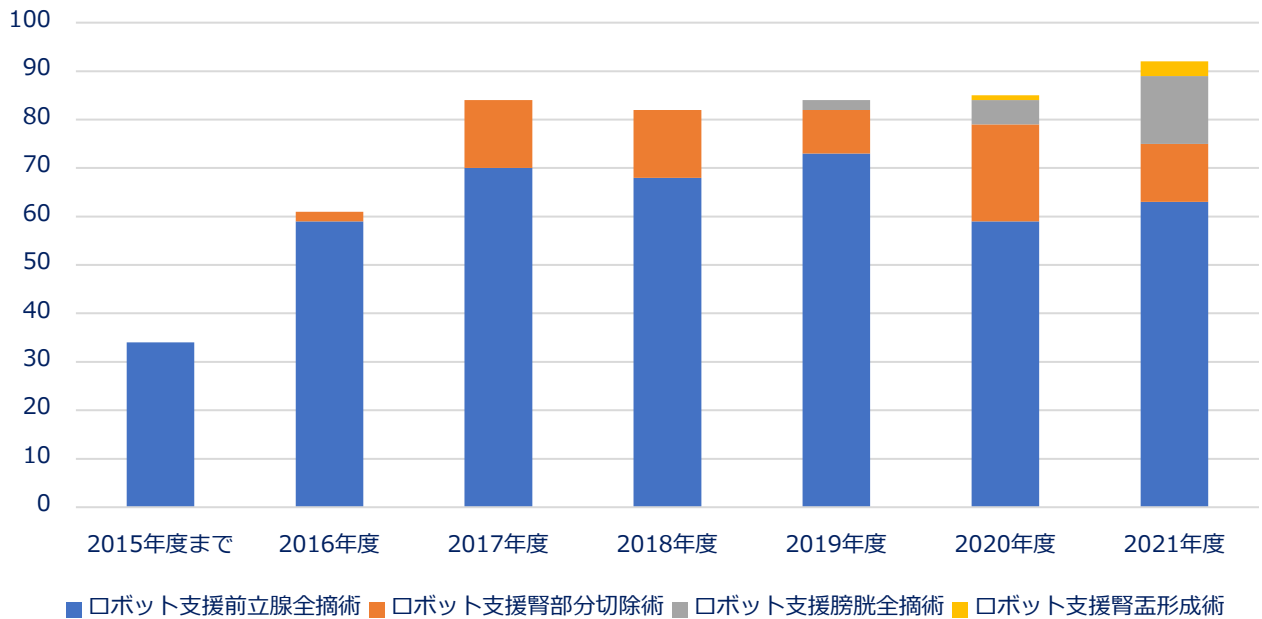


【4. 泌尿器科での取り組み】

泌尿器科においてもロボット手術は増加傾向です（図5）。前立腺全摘術が最も多いのですが、腎部分切除術、膀胱全摘術、腎盂形成術も増えています。特に膀胱全摘は2021年度14件と増加しました。膀胱全摘術は手術支援ロボットが導入されるまでは開腹手術で行い、術中の出血量が多く、

泌尿器科のロボット手術件数

図5



かなり体への負担が大きく、それなりのリスクを伴う手術でした（いわゆる大手術）。しかしながらロボット導入後、術中出血量は減少し、また手術創も小さく、体への負担は軽減し、手術のリスクも低下しています。膀胱全摘術の場合、尿道が温存できれば小腸で新たに膀胱の代わりとなる袋を作成し、尿道から排尿することも可能です。しかしながら尿道を合併切除しなければならない場合が多く、その際には尿をお腹に出すことになり（回腸導管：図6）、お腹に尿を集めるための袋を付ける必要

があります（数日で交換）。膀胱全摘術では生活の質は変化しますが、根が深いタイプの膀胱がん（筋層浸潤がん）に対する標準的な治療法で、最も有効性が期待できる治療です。

また、2022年度からは比較的大きな腎がんに対するロボット支援根治的腎摘術、腎盂がん、尿管がんに対するロボット支援腎尿管全摘術も開始しています。

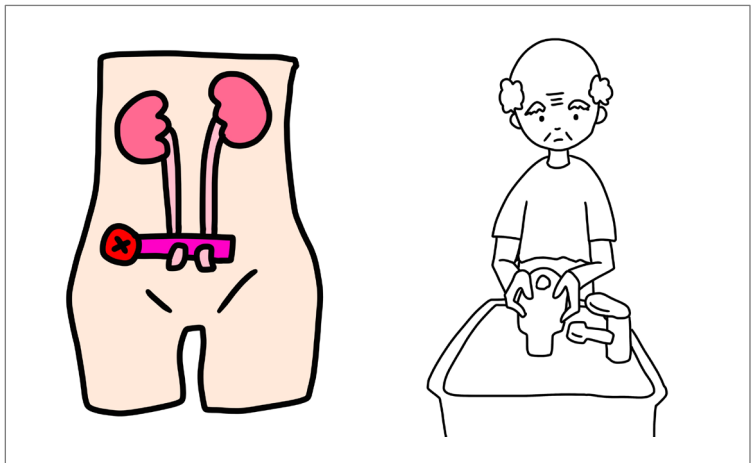


図6：左は回腸導管のイラスト。右は集尿袋に溜まった尿を出しているところ。

【5. 最後に】

上述しましたように、当院は多数のロボット手術を行っており、また近隣で手術支援ロボットがあるのは当院のみであることから、北播磨地域におけるロボット手術のセンター病院となっています。手術支援ロボットを用いて、これからも世界標準の最先端の医療が提供できるよう日々研鑽し、引き続き地域に高度な先進的な医療を安全に提供できるよう努力して参ります。

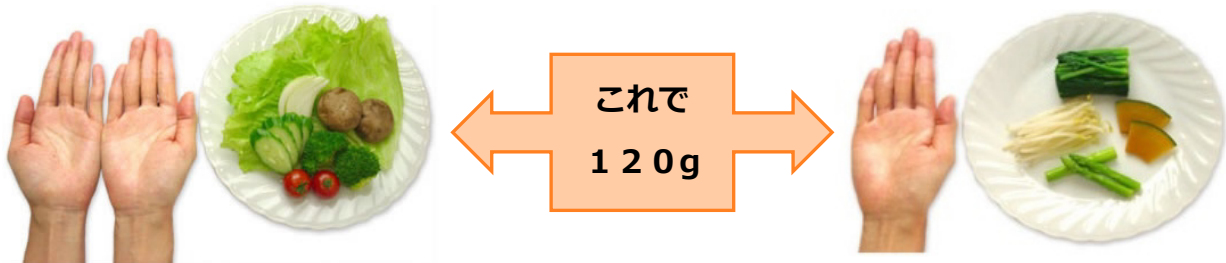
減塩のポイント



今回は、野菜や果物の摂取量、干物や塩鮭、加工食品について紹介します。

野菜はしっかり！果物は適量！

**1食に生野菜なら両手1杯分・温野菜なら片手1杯分
果物は1日に片手1杯分**



野菜や果物などに含まれるカリウムは、体内の余分なナトリウムを排泄し、血圧を下げる作用があります。

※腎機能が低下している等、カリウムの制限が必要な場合もあります。

干物や塩鮭の摂取を減らしましょう

干物や塩鮭などは、塩分が多いため、控えるほうがいいでしょう。
食べるのであれば、醤油はかけないようにしましょう。



マアジ・開き干し
塩分 1.4g



ほっけ・開き干し
塩分 3.2g



塩鮭・辛口
塩分 3.8g

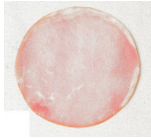


さんま・開き干し
塩分 0.9g

※商品によって塩分量は違います。

練り製品・加工食品にも注意しましょう

ハム、ウインナー、ちくわ、かまぼこなどの加工食品は保存性を高めるため、塩分が多く含まれます。



ロースハム・薄切り
塩分 0.4g



かまぼこ
塩分 0.6g



ウインナー
塩分 0.5g



はんぺん 35g
塩分 0.6g
ごぼう天 45g
塩分 0.6g
焼きちくわ・大
塩分 2.1g
がんもどき 40g
塩分0.2g

※商品によって塩分量は違います。

また、春はいかなごのくぎ煮やたけのこ料理（炊き込みご飯、若竹煮）などの濃い味付けの料理を食べることで、塩分摂取量が増えやすくなります。塩分を取り過ぎないように注意しましょう。

※心疾患、腎疾患、高血圧など減塩が必要で、当院で診察されており食事療法に関心のある方は、栄養指導を受けたい事を主治医にお伝えいただければと思います。

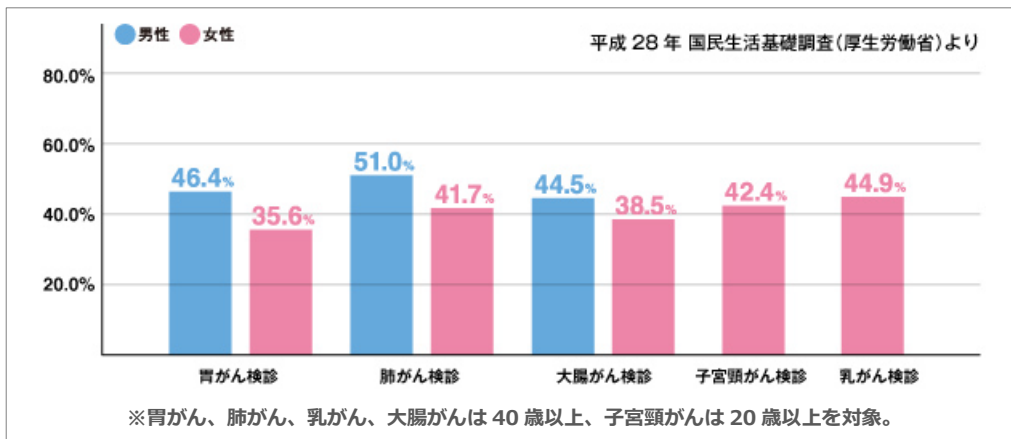




コロナ禍もアフターコロナも、受けて安心がん検診！

新型コロナウイルスは感染法上の分類が5月8日から、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられることが決定しました。新型コロナウイルスの発生から3年以上の年月が経ちましたが、この3年間、持病があるのに通院を控えたり、毎年欠かさず受けていた健康診断を見合わせてしまったという人も少なからずおられると思います。公益財団法人日本対がん協会の2021年のアンケート調査では、5つのがん検診（肺、胃、大腸、乳、子宮頸）でコロナの感染拡大が始まった2020年の受診者数と比べて23.5%増と回復しましたが、コロナ流行前の2019年と比較すれば、10.3%下回っており、コロナ禍の影響が続いていることがわかりました。これらの結果から心配されるのは、がんが早期に見つけれず、進行してしまっているのではないかとということです。

がん検診の目的は、がんを早期に発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減らすことです。
今年度の健康管理センター便りでは、がん検診についてお伝えしていきたいと思います。



グラフからもわかるように、日本のがん検診の受診率は4~5割程度です。女性においては、乳がん、子宮頸がん検診を含めた5つのがん検診の受診率は3~4割台となっています。

がん検診 愛する家族への 贈りもの



厚生省が掲げている「がん検診受診率50%達成」に向けたキャッチフレーズ、ロゴマーク及びイメージキャラクター。

がん検診を受けることで救える命はたくさんあります。人生を健康で豊かなものにするために、愛する家族を悲しませないために、がん検診を受けてみませんか。

☆☆☆ 大きくな〜れ ☆☆☆

4階東病棟

2月生まれのBabyちゃんたちを紹介します。



♡健翔くん♡ 陣痛が来て夜中に入院。少し肌寒い日の朝方、誕生した3,622gのとってもたくましい男の子です。ママは「私一人では経験できなかったことを2回も経験出来て幸せ。無事に生まれてきてくれてよかった。」と話されていました。おうちに帰ったらお兄ちゃんと仲良くしてね。



♡茉結ちゃん♡ 2,776gのかわいらしい女の子です。おうちではお兄ちゃんとお姉ちゃんが待っています。ママはお産の時のことを「3人目なので早く進んでくれるかなと思っていました。だけど、一番陣痛に耐えている時間が長く感じました。助産師さんが傍についてくれたので頑張れました。」と話されていました。元気いっぱい生まれてきてくれてありがとう。



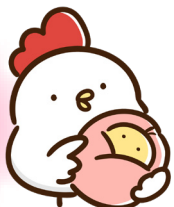
♡たけくん♡ 夜中に破水して、おじいちゃんおばあちゃんが病院まで送り届けてくれました。次の日の夕方に頑張ってお産してきてくれた2,936gの元気な男の子です。ママは「母はすごいなと思いました。自分で子を産み、わが子への愛おしさを感じています。」と話されています。ママも赤ちゃんもとってもよく頑張られましたね。



お産はママと赤ちゃんが一生懸命頑張ってお産の瞬間です。コロナ禍でお産に立ち会うことはできなくとも、パパやおじいちゃんおばあちゃん、みんなが全力で支えてくれたからこそその瞬間です。

大切な瞬間に寄り添えることに感謝しながら、スタッフも日々全力でサポートを行っています。

赤ちゃんが健やかに、すくすくと育ちますようスタッフ一同願っております。



患者満足度調査の結果について

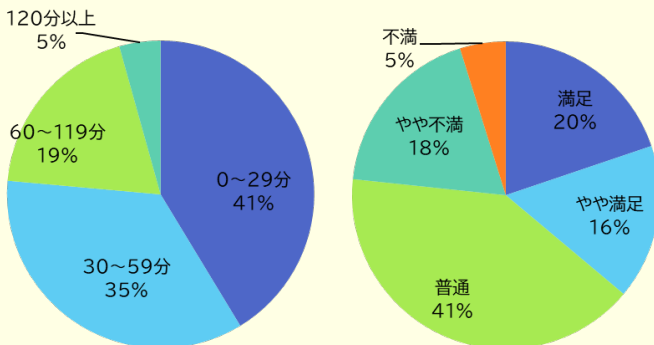


当医療センターでは、患者さんやご家族のみなさんへのサービス向上を目的として、毎年「患者満足度調査」を実施しています。令和4年12月に入院患者さん、外来患者さんにアンケートに答えていただき、その結果をまとめましたので、お知らせいたします。

外来患者さんの結果

実施期間 令和5年12月12日～16日（5日間）
アンケート配布数：645人、回収数：612人、回収率：94.9%

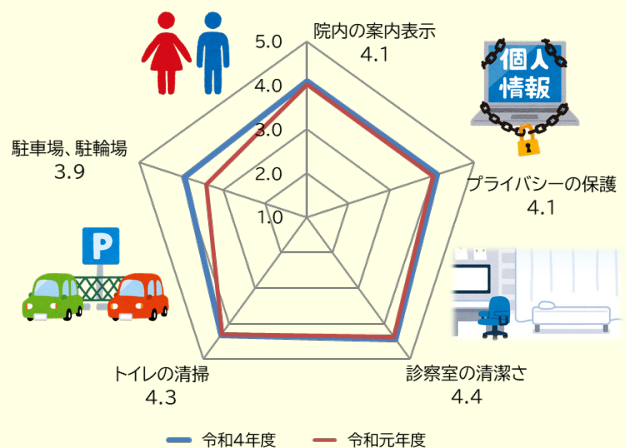
★各科外来受付から診察までの待ち時間★



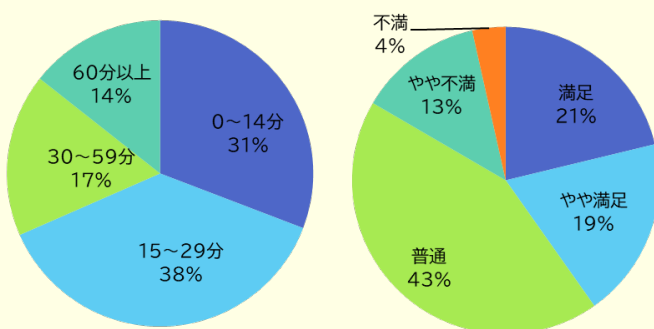
新型コロナウイルス感染症対策により、
外来は3年ぶりの実施となりました。

★施設設備・サービスについて★

5段階評価（5：満足、4：やや満足、3：普通、2：やや不満、1：不満）



★診察終了から会計終了までの待ち時間★

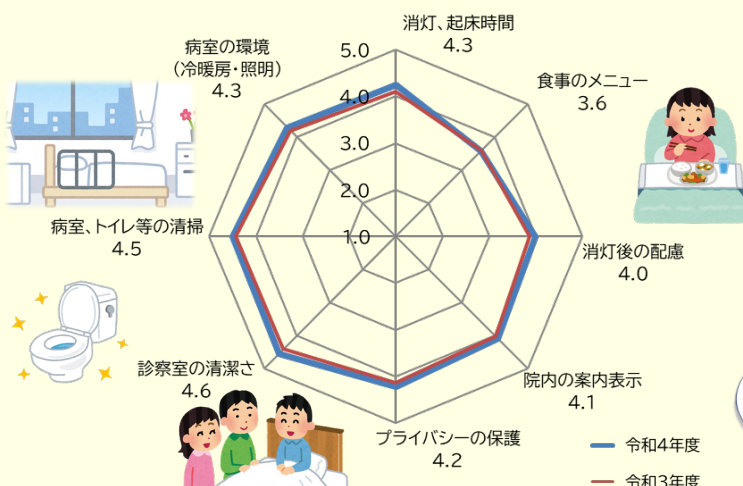


入院患者さんの結果

実施期間 令和5年12月12日（1日間）
アンケート配布数：156人、回収数：134人、回収率：85.9%

★入院環境・施設設備・サービスについて★

5段階評価（5：満足、4：やや満足、3：普通、2：やや不満、1：不満）



このたび、様々なご指摘やご要望をいただきました。貴重なご意見としてその内容を十分に精査し、できることから改善に努めてまいります。

これからも患者さんが安心して、受診・入院していただけるよう、サービスの向上に努めてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

また、アンケート結果の詳細については、当院のホームページや外来掲示板に掲載していますので、ご覧ください。

ご協力いただき
ありがとうございました。



退任医師・着任医師のお知らせ

令和5年3月31日付をもって39名の先生方が退任されました。お世話になりました。

外科、消化器外科、乳腺外科	副院長兼総括部長	黒田 大介
泌尿器科	総括部長	武市 佳純
麻酔科	嘱託医	北村 参治
小児科	主任医長	田中 司
整形外科	主任医長	新倉 路生
脳神経内科	医長	下村 雅浩
リウマチ・膠原病内科	医長	土橋 直史
眼科	医長	厚見 知甫
糖尿病・内分泌内科	医員	小畠 正樹
呼吸器内科	医員	安井 裕美
脳神経内科	医員	橋本 黎
呼吸器外科	医員	藤林 祐介
整形外科	医員	琴浦 健
整形外科	医員	小西 赳広
内科	専攻医	櫛田 高浩
内科	専攻医	久後 啓介
循環器内科	専攻医	飯田 圭輔
呼吸器内科	専攻医	西井 雅彦
消化器内科	専攻医	戸田 憲作
消化器内科	専攻医	水上 稜介
消化器内科	専攻医	橋本 宏之
腎臓内科	専攻医	井出 文枝
腎臓内科	専攻医	小島 克仁
放射線診断科	専攻医	梅野 晃弘
小児科	専攻医	田中 元
外科	専攻医	中村 浩之
整形外科	専攻医	雲井 洋文
整形外科	専攻医	片岡 郁吾
脳神経外科	専攻医	芝野 綾香
	研修医	井上 真惟
	研修医	川端 直樹
	研修医	高尾 知世

	研修医	高見 僚一
	研修医	白 洸寿
	研修医	松原 羽矢
	研修医	山下 修平
	研修医	宇野 友哉
	研修医	松本 真輝
	研修医	高橋 慧

令和5年4月1日付で37名の医師が着任され、医師は176名体制となりました。北播磨地域の拠点病院として体制整備し、さらに充実した医療を提供してまいります。なお、新任ドクターは5月増刊号でご紹介いたします。

救急救命士の医療行為等に関するお知らせ

令和5年4月1日より、当医療センターの救急外来に救急患者さんの受入・診療を円滑に行うため、医療チームの一員として救急救命士を配置します。

令和3年10月1日の関連法令の改正により、救急救命士は医師の指示・監督のもと、一定の医療行為が可能となりました。

当医療センターにおいても、救急救命士が医師の指示・監督のもと、救急救命処置等を行いますので、ご理解とご協力をお願い致します。

【編集後記】

満開の桜のなか開院して10度目の春を迎え、着任、新採用された職員と共に新年度がスタートしました。今年度、さらに充実した医療を提供できるよう、職員一丸となり地域医療に貢献していきたいと思えます。

昨年度をふりかえってみますと、記憶にも新しいワールド・ベースボール・クラシックがまず頭に浮かびます。日本チームが

14年ぶりに世界一となり、日本中が注目し私自身も感動致しました。新型コロナウイルス感染症や戦争などの暗い報道が多い中、前向きになれる嬉しい瞬間でした。

本紙ではこれからも皆様に興味を持って頂ける、お役に立つ情報をお届けしたいと思います。よろしくお願いいたします。

医事管理課 日野 雄貴

発行／北播磨総合医療センター 広報委員会【事務局：管理部 経営管理課】

〒675-1392 兵庫県小野市市場町926-250

☎：0794-88-8800(代表) ホームページ <http://www.kitahari-mc.jp/>